

水源の森再生PJ #2

～山の涵養力を育てるボサ置き・土留め・石積みの施工～

◆講座の目的と概要◆

2021年10月9日(月)～10(日) 参加者48名

「自然と共生する昔の知恵に学び、山を育て、自分を育てる」

本講座は、環境改善の技術を学ぶだけではなく、「山に向き合う姿勢・視点」を養い自然を読み解く観察力を身につけ、日本各地で環境再生を指導する方を養成していきたいと思っております。2021年6月から始まり複数回、同じ現場で活動しその変化を体感しながら学びます。基本となる、山の土中環境を傷めず育む作法は、毎回の活動中にお伝えしていきます。

◆山の涵養力を育てるボサ置き・土留め・石積みの施工◆

▼“わさび田は、究極の砂防ダム”

かつて小菅村内の沢のいたるところに広がっていたわさび田。沢に石垣を整備することで傾斜を調整しつつ、伏流水を保ってきました。泥詰まりして伏流水の流れを止めてしまうと、わさび田として使えなくなってしまう事から、山の安定に常に留意して、崩壊箇所にはその都度石を積んで修復していました。その積み重ねが、治山治水の効果を発揮し、山を安定させてきました。

一方で、コンクリートで固めたり、パイプで水を引いたりといった工事を行った箇所もあります。その結果、わさび田に保たれていた水の流れが滞り、泥詰まりを起こしたわさび田では、わさびが十分に育たなくなってしまっています。

今回の講座では、わさび田の今に受け継がれる仕組みも、それを壊してしまった施工も観察し、かつての人々が石積みによって保ってきた沢や斜面の安定を学びました。



▼石積みで湧き水を呼び戻す

先人たちの知恵と心技を体感しながら、石積みを実践しました。斜面には無造作に積まれた大量の石があります。石を取り除いていくと、地面にスッと空気が通る感じがします。そこに、水と空気が流れる石積みを実施していきます。すっかり荒れてしまった谷筋を石積みで安定させます。参加者は、夢中で石積みに取り組んでいました。



講師・『土中環境』著者
高田 宏臣氏



◆もっと詳しく知りたい方へ◆

本講座で学ぶ技術などは、高田宏臣氏著『土中環境』や、NPO法人地球守発行の「地球守の自然読本」に紹介されています。

☆お問合せ 源流大学 ☎ 0428-87-7055

✉ info@npokosuge.jp

主催/NPO法人多摩源流こすげ・多摩川源流大学
技術協力/株式会社高田造園設計事務所
・NPO法人地球守 後援/小菅村役場